

金沢城公園 中期経営目標

(実施期間 令和5年度～令和9年度)

令和5年3月 改訂

1 施設の設置目的

金沢城の貴重な歴史的文化遺産の継承と都心部に残る自然環境の保全を図りながら、兼六園と並ぶ石川県のシンボル公園として、また、本県の歴史・文化・伝統を継承する「象徴」として、本県の豊かな文化土壌に一層の厚みを加えるとともに、県下の交流人口の拡大と都心地区の活力の源となり、新たな賑わいの創出と魅力向上に寄与することを目的としています。

2 施設の果たすべき役割

金沢城公園は、国指定史跡である金沢城の歴史・文化をはじめ、復元建物や堀・石垣等の魅力を多くの方々に堪能していただくとともに、歴史的な城郭空間の利活用を促進し、兼六園と並ぶ本県の観光交流拠点として、さらには、県民のシンボル公園として、多くの方々に利用していただくことが重要な役割です。

3 事業内容

(1) 金沢城公園の整備

江戸時代後期の城郭の地割を基に、史実を尊重し、城郭、歴史、考古学などの専門家や有識者の方々に相談しながら、城郭の基盤である堀、石垣の修復・整備、歴史的建造物の復元、本丸跡の緑の保全と活用、各遺構跡の広場や園路、休憩施設等の整備を進めています。

(2) 金沢城公園の利活用

金沢城の品位、風情、歴史文化等「金沢城ならではの特性」を損なわず、広く県民に親しみ、楽しんでいただくとともに、歴史文化遺産として広く発信できるイベントを開催することを基本方針とし、県民や観光客がより一層親しみ、また楽しんでいただけるよう、復元建造物や広場などの特性に応じた利活用を推進します。

4 現状と課題

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

- ・令和2年7月の鼠多門・鼠多門橋の完成により、城外周に面した城郭景観が創出されるとともに、市街地側の新たな入口が設けられたことにより、来園者の利便性や回遊性が高まったところです。令和3年度からは、城の中核であった二の丸御殿の復元整備事業に着手し、発掘調査など復元整備に向けた取り組みが進められています。
- ・来園者数は、平成27年度の北陸新幹線の金沢開業以降、開業前を大きく上回っていましたが、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新幹線開業前と同程度まで減少しました。今後、ハード・ソフト両面での事業展開を図り、来園者数の拡大を図る必要があります。
- ・公園の利用促進については、「金沢城公園利活用推進策」(平成22年3月策定、令和3年3月改定)に基づき、新たなイベントの開催やアフターコンベンションの受入れなどが必要であると考えています。
- ・また、多様な方々に配慮した施設整備の推進、案内所スタッフなどの接遇の向上、ホームページの充実による来園者への一層のサービス向上が求められています。
- ・外国人来園者への対応は、これまでに、案内サインの多言語表示やホームページの多言語化及びスマートフォン対応、パンフレットの多言語化、さらには外国語ボランティアガイドの配置、公衆無線LANの整備などを実施してきたところです。引き続き、外国人の受け入れ環境を整備していく必要があります。
- ・玉泉庵及び鶴の丸休憩館についても、利用の拡大に向け、ホームページ等でのPRを行っていく必要があります。

(2) 施設運営の効率化について

- ・既に、警備や料金徴収、清掃等管理業務については、民間への業務委託を実施し、施設運営の効率化を推進してきたところですが、省エネルギー化やデジタル化などにより一層の経費削減に努めていく必要があります。

5 中期経営目標

(1) 中期経営目標

- ①利用者数については、現状の水準を維持します。
- ②利用者アンケートによる満足度は、95%以上を維持します。
- ③利用者1人あたりの一般財源投入額は、現状の水準を維持します。

(2) 測定指標と目標値

| 測定指標 | 基準値 (H29～R1平均) | 中間目標値 (R7) | 最終目標値 (R9) |
|--------------------|-------------------|---------------|---------------|
| ① 利用者数 | 2, 233千人 | 2, 233千人 | 2, 233千人 |
| ② 利用者アンケートによる満足度 | 96% | 95%以上 | 95%以上 |
| ③ 利用者1人あたりの一般財源投入額 | 94円 | 94円 | 94円 |

6 目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

①施設の利用促進に向けた取り組み

- ・金沢城ならではの特性を活用し、「金沢らしさ」が感じられるイベント等により、利用者満足度とイメージの向上を図ります。
- ・重要文化財建造物の公開や四季の花巡りなどのガイドツアー等を実施して、金沢城の魅力を発信します。
- ・金沢コンベンションビューロー等と連携して、復元建物の利活用を図ります。
- ・金沢城調査研究所などと連携して復元建物を活用した展示企画等を実施し、金沢城の歴史や文化を発信します。
- ・鶴の丸休憩館やホームページ等を活用し、四季を通じた金沢城の見どころの紹介などの情報発信に努めます。
- ・わかりやすく、金沢城公園の魅力が伝わるパンフレットづくりに努めます。

②サービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ・案内所や亭茶等の運営スタッフやボランティアガイドの接客力の向上を図り、案内やおもてなしの充実、来園者への一層のサービス向上に努めます。
- ・車いすの貸し出しや、多様な方に配慮した施設整備に努め、誰もが利用しやすい施

設の運営に努めます。

(2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・エネルギー節減の意識を高め、光熱水費等管理コストの縮減を図ります。
- ・既設照明のLED化を進め、電気使用量の削減を図ります。